

藤岡地方ユネスコ協会

ユネスコ活動の発信

会長 岸 正博

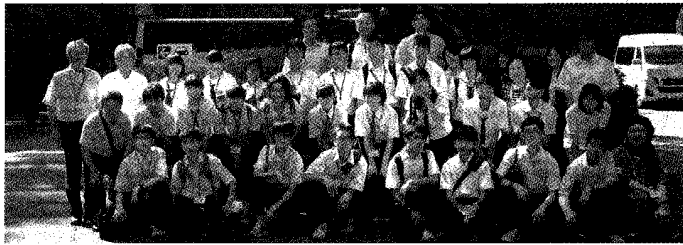
「ユネスコって何?」「ユネスコって何をやっているの?」等の質問を受けることがある。「ユニセフ」や「JRC」と混同されることも多い。そこで、民間ユネスコ協会の活動の発信力を高めるべく、数年前から広報活動を強化し、専属の部署を設置した。取材、執筆、印刷の後、送付を行う。月一回の役員会議が時に編集会議となる。

会員への主催行事の案内、報告の他、毎回「ユネスコスクール訪問」を行い、各校でのプロジェクトの内容を掲載している。今年度は八月号で、JICA筑波での国際理解研修の報告、また、藤岡第二小学校の「藤岡瓦、鬼瓦」を中心とした地域遺産学習の取組を掲載した。かつて、「藤岡瓦」として全国でも有名な瓦産地だった地元の伝統技術の体験学習が中心であり、今年で二十二年目を迎える。「現代の名工」の鬼瓦師、山口茂氏、全国でも数基しか残っていない「だるま釜」をもつ共和建材社長、五十嵐清氏の協力を得た学習である。

二〇一六年一月号では、「外国人による日本語弁論大会」の報告、そして、北中学校のチャレンジウィーク(職場体験)等での地域貢献活動、「ちいき隊」の特集を組んでいる。北中学校は、一九九一年三月、全国に先駆けて職場体験学習を

実施したキャリア教育のパイオニア校であり、二〇一二年一月には文部科学大臣賞を受賞している。民生児童委員と連携し、地域の独居高齢者宅や諸施設等へのボランティア活動が主である。「新たな自分・新たな夢・新たな可能性に挑戦」するプロジェクトとなっている。また、三月には、小野中学校を訪問し、「愛いきプロジェクト」、ESD パスポート等の実践の特集を行う。なお、二〇一六年一月十九日の「第一回群馬県ユネスコスクール研修会」で、小野中学校生徒がESD パスポートの実践報告を行う予定である。

現在、ESD・ユネスコスクールの推進に活動の重点を置いている。環境的視点、経済的視点、社会・文化的視点から、より質の高い生活を次世代も含むすべての人々にもたらしことのできる開発や発展とともに、持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目指している。



広報「ユネスコ通信」

中之条ユネスコ協会

ふるさとの文化財絵画展

期間 10月28日(水)～11月24日(火)

場所 ツインプラザ図書館閲覧室

主催 中之条町教育委員会

中之条町文化財専門委員会

後援 中之条ユネスコ協会

趣旨・目的 ふるさとに残る文化財をテーマとした絵画を募集し、作品展を実施することにより、児童・生徒が身近な文化財に関心を持ち、文化財保護の重要性を認識し、愛護精神の高揚を図る機会とする。

対象 中之条町管内の小中学校に在学する児童・生徒

応募規定

(一) 題材 町内の指定文化財をはじめ、神社やお寺・お堂などの建物や、道祖神やお地藏さんなどの石造物、お祭りの風景など

(二) 画材 絵具、ポスターカラー、色鉛筆・クレヨンなど自由(鉛筆によるスケッチでも可)

(三) 応募作品 八十点

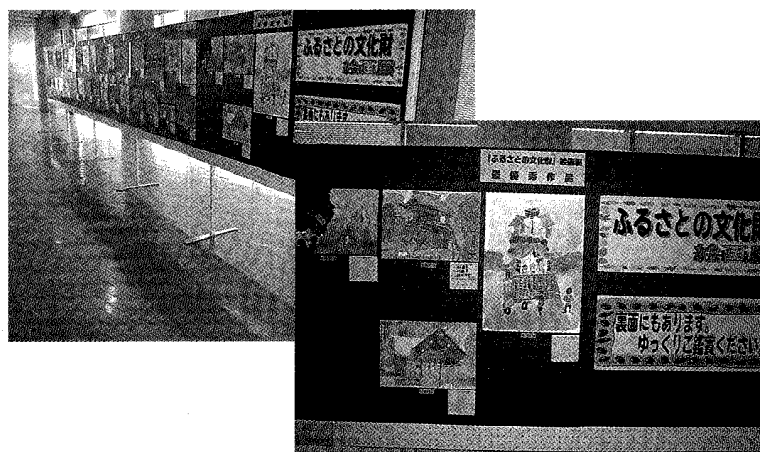
(四) 最優秀賞

梅松咲優(中之条小二年)、池田尚文(中之条小三年)、林花怜(中之条小六年)、山口達也(六合中一年)

(五) 優秀賞

池田浩之(中之条小一年)、野口瑞起(中之条小二年)、安達梓(中之条小三年)、齋藤希光(中之条小四年)、山田乃亜(中

之条小五年)、木暮歌織(中之条小六年)、野口香織(中之条中三年)、山崎日菜乃(六合中一年)



大泉ユネスコ協会

二十七年年度の後半の行事は関ブロや当協会二十周年の記念事業のビッグ事業も終了し、本来の行事を改めて考えるのに良い年のような気がします。

ユネスコ憲章の崇高な願いとは裏腹な世界の出来事、惨状がテレビや新聞に報道されています。シリアの内戦―難民―ヨーロッパへ。ISの残虐な行為。パリ